

（午後3時15分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番14、12番 堀内君。

〔12番（堀内和久君）登壇〕

○12番（堀内和久君）皆さん、こんにちは。すいません、お待たせしました。2日目の7人目、堀内和久でございます。時間的に大丈夫かなと思うんですけど、何分段取りが悪いもんで60分ぎりぎり使うと思いますので、本日の大トリですね。鳳啓助、きのう出てきましたけど、段取りして、あとは市長の温かい答弁をいただければ全てよし。5番議員の鳳啓助ありまして、僕、ちょっとわからなかった、くすって言わなかったんで、ちょっと調べてみたんですね。大鳥圭介ってインターネットを見たら、江戸末期、明治初期の政治家。あまり僕、日本史に詳しくないんですけど、教科書に載ってそうな人ですね。が、その方ではなくて、もう一人同姓同名で、漢字が違うんですけど、鳳啓助さん。京唄子って言うたら、ちょっと僕、ぴんと来るんです。渡る世間を見てたんでね。どっちかいうたら、えなり君世代なんで。昭和のめおと漫才だったんですね。

ポテチンというのは、それもわからなかったんで調べたら、私らの世代でいうと、志村けんさんのアイーンとか、ダンディーのゲッツみたいなもんなんかとか思うんです。世代によって笑いが違うように、市民の求めている政治も考え方も違うということなんかあって、未来につながるような質問をさしていただきたいと思います。

ちょっと話は変わるんですけど、広島カープ、四半世紀ぶりに優勝しまして、高額年俵を捨てても日本野球界に復帰した黒田投手、僕、個人的にファンなんですけども、目標を達成し感動した方々もたくさんいると思います。最近では、どのスポーツ、どの球団でもすぐれた選手を高額な金額で招いて、その割には特別な効果、どこも感じないように思います。しかし、カープはトリプルスリーのような選手もいてませんし、前田健太投手も抜けまして力が落ちたように思うんですけども、皆の少しずつのレベルアップときずな、ここぞという集中力、ピンチの後に必ずチャンスがあって、こつこつ粘り強く行ったら夢がかなったのかなど。

一般質問も出し続ける、言い続けることが大切であるってさっき聞いたような気がしますので、それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

大きく三つございます。

一つ目、こども園計画の今後についてNo. 2。

前にも1回させていただきましたので、No. 2とさせていただきます。平成26年12月議会より2回目ですが、新市長誕生後、任期半分が過ぎました。本市のこども園計画の現在の進捗状況と第一次計画の達成、そして二次計画実施についての検討課題などあれば、お聞かせください。

二つ目、これももう4回か5回になるんですけども、高野七口黒河道世界遺産追加登録について。

橋本市初の世界遺産に向けて地元、関係機関と協議・対話をかなりしてきました。過去

の一般質問においても、ハード・ソフト面に前向きに検討していただいていると信じております。7月にトルコ、イスタンブールで行われた世界遺産会議において、本市からの黒河道が追加登録に対して極めて高い可能性であるように思われておりました。しかし、残念ながら、クーデター等のため、審議事項は10月末、パリのユネスコ本部で再開とのことであります。市長はよく言われます。ピンチがチャンスとよく聞きますけども、まさしく今がそのときであると思います。できた時間を有効に、再度本市の今後について、他市町村より思いを強く、世界遺産の企画立案とイベント、周知PR活動、そして記念式典について、お考えをお尋ねいたします。

三つ目でございます。ふるさと納税についてでございます。

ちょっと角度を変えて質問させていただくんですけども、本市のふるさと納税はJTBに委託以降、実績は良好であると感じております。また、寄附、納税された金額は、現在、右肩上がり感謝すべきものであると同時に、お返しの商品など、地元の産品のPR活動にも尽力いただき、重ねて感謝であります。今後の取り組みはどうお考えですか。そして、納税額の受け入れの際の寄附金の使い道の記入項目欄について、もう少し選択肢はないのか、お伺いいたします。

以上、三つ、明確なご答弁、よろしく願いいたします。

○議長（中本正人君）12番 堀内君の質問項目1、こども園計画の今後に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（石橋章弘君）登壇〕

○健康福祉部長（石橋章弘君）こども園計画についてお答えします。

本市は就学前児童の保育・教育環境の整備

を図るため、平成19年度に橋本市幼保一元化5カ年計画を発表しました。

この計画の基本政策の柱として、一つ目に、公立保育園を核に公立幼稚園を統廃合し、認定こども園に集約をすることとしており、二つ目に、官から民への流れを取り入れ、民間でできることは民間に運営を委託するとしています。

平成21年度開園の高野口こども園は4法人、平成24年度開園のすみだこども園は6法人、平成27年に開園の橋本こども園は3法人、応其こども園は4法人からそれぞれ指定管理者の応募があり、選定委員会で指定管理者候補を選定の後、議会の議決を経て指定管理者を決定しました。

第一次計画での残りの山田地域、学文路地域については、用地確保の問題、財政状況の悪化などの理由により、開園時期は大幅に遅れる見込みです。

第一次計画終了後、検討することになっていた第二次計画は、耐震性の問題から、応其地域の3園がこども園として開園することとなったことから、紀見地域のみ残ることとなりました。

第二次計画は、第一次計画の終了見込みが立ってから作成することとなります。

○議長（中本正人君）12番 堀内君、再質問ありますか。

12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）どうもご丁寧にありがとうございます。まあまあ、こんな感じですね。進捗状況は前回より2回目、同じ答弁やと思うんですけど、進捗状況はなしという解釈でよろしいですか。お願いします。

○議長（中本正人君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）前回の質問をいただいてから、計画自体が表面上進んでいないという状況でございます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）財政難という言葉がプラスされてきたことは理解できますけども、用地確保という答弁があったと思うんですけど、ここについての議論というのは財政難とは関係ないと思うんですけど、それについての議論というのはどのようにされたのか、教えてください。

○議長（中本正人君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）用地につきましては、当初、計画されておりました旧学文路中学校跡地、この活用について、担当、関係各課が協議を行いました、その活用方法についていろいろ課題があるということが出てきましたので、財政状況悪化と相まって、ちょっと計画が現在とまっておるという状況でございます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。仕方のないことだと思いますし、汗をかいていただいております。ただ、財政難がプラスされたことで、用地確保はそういう議論があったのであれば、難しいこと考えらんと、平木市長は割と柔軟な市長やと僕、いつも思うんで、持っている材料で的確に勝負できるのかなと思います。何を言いたいのかというのはちょっと通告から外れるんで、額縁を外してもう一回考えようよということだけを議事録に残しといてくれたらと思います。

次、二次計画というのは一次計画が終了後、再度検討していただきたいと思うんですけども、公設公営のこども園というのは可能なんですか。ちょっとお答えください。

○議長（中本正人君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）公設公営でのこども園計画についてでございますけれども、実は、幼保一元化5カ年計画の中におきましても、実は課題という部分で認定こども園に

ついては、官から民へを基本としていますが、二次計画では、公立の認定こども園も設置し、多様な特色ある就学前教育、保育をめざし、また、お互い、このときは官民、民民が切磋琢磨して、よりよい質の高い教育保育をめざしますというふうな書き方、それと、もう1項目には、紀見地域についても、こども園を必要としていますが、第一次計画では、こども園の実施が、第一次計画では紀見地域について、こども園の実施が見込めないことから、とりあえず、紀見地域については、二次計画にこども園計画を反映していくというふうなことも書いてございます。

したがって、いわゆる、今おただしの公設公営というふうなことも視野に入れていたということでございますので、可能というふうに考えます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。市長もかわれば部長もかわるんで、答弁も変わってきているのかなと思います。最初、僕、この2回目の質問とまた別で、公設公営を残せないかというようなテーマで1回問うたことがあると思うんですけど、そのときとちょっと温度差が違くなって。あのときに、そういう答弁を欲しかったなと思います。そんなんで行けるのであれば行けるでいいと思うんですけども、話を進めていかないとけないと思うので進めます。

最終的に、市長か副市長に聞くんですけど、市長の懐刀、財政課長にお伺いするんですけど、一次計画内の議論ですけど、公設公営、公設民営、民設民営、今後どのような選択肢が財政面から見て最善であるか、財政課長の見解をお伺いいたします。

○議長（中本正人君）財政課長。

○財政課長（小原秀紀君）まず、建設費でいいますと、公設の場合は、国からの補助金等

は全くございませんので、一方、民設の場合は国からの補助金等がありますので、建設にあたっては、民設のほうが財政的には有利かと思えます。

それと、運営においては、公設公営の場合は、これもまた補助金がありませんので、一方、民設民営の場合は、国からの補助金、県からの補助金もありますので、運営面、建設面においても、運営面は民設民営、建設面も民設民営が有利かと思っております。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）的確なご答弁で、話が早いと思えます。健康福祉部長に戻んですけども、本市の財政状況を見て、負担軽減の答えで、ええキャッチボールができたかなと思うんですけども、市長に提言していく部として、民設民営の選択肢で上に問いかけるというようなスタンスは持っていच्छゃいますか。

○議長（中本正人君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）今の財政課長の答弁におきましても、民設民営につきましては、実際、さつきこども園が開設しておりますけれども、このときには、県費の補助がございましたので、民設民営によるこども園建設は、市にとっても、あるいは事業者にとっても補助金がございましたので、メリットはあったということになりました。

民設民営とした場合においても、例えば、土地を市で用意して、民設民営のこども園を建設するのであれば、市の指導、あるいは監査等も十分にできると考えております。というようなことから、民設民営の考え方も選択肢の一つとして検討していくことを提案していきたいと考えます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。最近は少子化の関係で、学校の統廃合なども

よその自治体でもよく聞きますし、本市もありましたし、深刻なことでありますが、当然、就学前のこどもたちもある程度落ちついたかなと思うんですけど、減少傾向、地域にもばらつきがあるんですけど、こども園になるんで地元で全部行っているとは限らないんですけど、こども課やったら、数字は住所とその地域の学区区というか、表現はちょっと間違っているかもわからないんですけど、あるのかなと思えます。でも、バランスよう行ったときに、今、現時点でいうと、一次計画でいうと、河南と西部山田というんですか、がまだやということで、ほんで財政難があって土地のあれもあって、わかるんです。そこで別に無理につくらなあかんやないかということは、公設民営で続けていかなあかんやないかとかそういうことは僕はいいんです。

今の話の流れからいったら、財源確保はある程度できたら、財政課長、つくってもらえると思んですけど、僕は住まいが河南なんです。当然ないし、最近ちょっと幼稚園であったりとか、ちょっと人数が減ってきて云々という話も浮上したんで、この一般質問をさせていただいたんですけども、やはり本来であれば、平成25年ですか、ここら辺で時間のあれでいうたら25年というふうに一次計画でなっただと思うんですけど、ちょっと前の市長の忘れ物というか、合併特例債とかはどこへ行ったのかなと、その話は置いておいて、一次計画の遅れを議論するつもりはありません。一切ありません。傾きかけた財政を立て直すのに、平木市長はほんまによろやってくれていると僕は敬意を思っております。

しかし、子どもたちの観点の平等性から見たときに、ちょっとずるいことを言うんですけども、やっぱり公設民営のどこ、民設民営でもええ、こども園というのを、あと河南と山田、ほんで二次計画どうするというテーブ

ルに早く乗せてあげやないけないのではないかなど。お金はないけどもせなあかんのではないかなって。そこら辺をちょっと思うんですけども、事務方の一番偉い副市長にお伺いするんです。前向きな答弁、何かありますか。

○議長（中本正人君）副市長。

○副市長（森川嘉久君）ちょっとどういうふうにお答えをされているのかというところもあるんですけども、学文路の場合、その財政難ということもあったんですけども、一次計画で考えておったのは、実は学文路中学校の跡地を候補地に考えておったんですけども、そこが若干いろいろな問題があって、現状では使いにくいという判断にはなっておりますけども、これはもう少し、地区の要望であります公民館用地ということもありますし、総合的にそこらのことと、それから、水の対策のことを含めまして活用できないかどうかというのは現在もまだ検討は続けております。ただし、かなり困難だということで、ちょっと先へ延びてしまっているのは事実でございます。

それから、山田地区についても同じように、議員もご存じのとおり、今、既に用地の問題が片づいておったら、ひょっとしたらもう建っておったかもわからないんですけども、いろいろ問題が途中で生じて、かなり進んでおったところがちょっと挫折をしてしまったということがございますので、進まないような状況にはなっておるんですけども、結局、先ほどから申し上げておりますように一番の問題点というのは、やっぱり用地のところと、それから財政問題という話にはなってきます。

ちょっと議員のご指摘があって財政課長も答弁させていただきましたように、財政問題のところにつきましては、いろいろと解決方法は若干あるのではないかとこのように考えておりますし、あとは用地の問題をクリアし

ながら、短期的にすぐできるという財政状況であれば、先ほどから皆さんからご質問いただいております点も全部できていくという話にはなるんですけども、そういうことには残念ながらなっておりませんが、この問題については、市長としても最重要施策であるというふうに認識をさせていただいていると思いますので、この二つの問題が解決すれば進んでいけるのではないかとこのように考えております。

ただ、その前提といたしましては、地元の方のご理解、当然、用地の問題でありますとか、その運営形態でありますとかということになりますと、地元の方々のご理解と議員の皆さまのご理解が不可欠になると思っておりますので、その辺はいろいろとまた協議をさせていただく時点では、ご理解をいただけたらというふうには思っております。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。ほんまに答弁うまいですね。ほんまにうまいことやってくれるんで、次、聞けないですけどね。思いはわかってくれと思うんです。ほんで、平等性に見たときにどうすべきかということと、ある程度の財源確保的なこととか、民設民営の選択肢であったりとか、僕、さっきも壇上で言うたように、世代によって笑いが違うように、世代によって答えも違うんです。

だから、ある程度はやっぱり発言力のある人というのは、当然、区長さん世代になってくると思いますし、説明に行くのも、当然、飛び越えずに会長で区長で班長でって、こういうふうにおろしていくのはわからんでもないんですけど、こども園というのは30代を主とした子育て世代のものでありますし、何より子どもたちのものでありますから、そこら辺を一番に考えたときに、そこもし意見の

多数決がぶつかったとしても、子どもたちのって考えていったときに、そこは別に区とけんかせえと言うとるわけと違うんです。子どもたちの未来を、心を養う一番大切な場所なんだということをしたら、当然、孫世代になるんで理解してくれると思うんです。だから、学文路中学校跡地云々とかそういうのは額縁を外して、統合委員会が跡地利用委員会にスライドするんですね。だから、もうちょっと柔軟な、できるものをもうちょっと知恵を寄せて、この問題にじっくり行っていただきたい、じっくりというかはよつくってほしいんですけど、そこら辺を要望して一つ目の質問を終わらせていただきます。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、高野七口黒河道世界遺産追加登録に対する答弁を求めます。

教育部長。

〔教育部長（森中寛仁君）登壇〕

○教育部長（森中寛仁君）次に、高野七口黒河道世界遺産追加登録についてお答えいたします。

議員おただしのとおり、本市賢堂を起点とする高野参詣道黒河道が世界遺産に登録されるということは、国内のみならず、世界に広く認められた文化遺産でもあり、本市としても大変名誉なことで誇りでもあります。

本年7月、トルコのイスタンブールで開催された第40回世界遺産委員会で黒河道の世界遺産登録の可否が審議される予定でしたが、開催地の治安問題により審議されないまま持ち越され、来る10月24日から26日にフランスのパリで臨時会合が開かれ、審議される予定です。

本市では、年度当初、黒河道が世界遺産登録された場合に備えて、記念イベントの開催を予定していましたが、伊都地方1市3町で設置している和歌山県世界遺産高野地域協議

会が12月4日（日）に、本市において加盟市町共同で記念式典、講演等のイベントを開催することになりました。世界遺産審議登録となる橋本市が会場となることから、記念式典等はこれに譲ることとし、来る10月のパリでの臨時会合において、黒河道の世界遺産登録が決定となった場合、決定の翌朝にセレモニーを実施したいと考えております。しかしながら、予定日は平日となり、市庁舎前では開催が困難と考えられるため、黒河道の起点となる賢堂地区の定福寺においてセレモニーとくす玉割り等を行う予定です。

次に、周知・PRについてですが、世界遺産登録が決定次第、市ホームページ、フェイスブックに速報を掲載します。「広報はしもと」には12月号で4ページのカラー特集を組むこととしており、黒河道の歴史、市民の喜びの声、ルートマップなどを、写真を交えながら紹介したいと考えています。

また、主要な駅や公共施設などに世界遺産登録記念の横断幕や懸垂幕、のぼりを設置するほか、市公用車にマグネットステッカーを装着し、まずは広く市民、そして観光などで橋本市を訪れる皆さんに周知をしまいたいと考えています。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

〔経済推進部長（笠原英治君）登壇〕

○経済推進部長（笠原英治君）高野七口黒河道世界遺産追加登録に伴う、ハード面・ソフト面の整備についてお答えします。

まず、ハード面の整備に関しては、トイレ及び案内看板等の設置を考えています。

トイレ整備については、電気・水道・管理用道路などのインフラが整った場所に、目的にふさわしい比較的規模の小さい男女別トイレを設置したいと考えています。

また、案内看板等については県の補助金を活用し、本線を誘導する道標板を15枚、位置

を確認するための里程板を9枚設置する予定です。さらに、周知・PR看板を南海電鉄の紀伊清水駅周辺に設置する予定です。

次に、ソフト面に関しては、追加登録記念イベントとして、10月1日に黒河道世界遺産登録祈念ウォーキングイベントを、11月5日には、橋本市観光協会、高野七口再生保存会、及び、地元黒河の会など、関係団体と連携し、黒河道トレッキングイベントを開催する予定です。

また、今後、市単独イベントのみならず、県、関係市町、並びに関係団体との連携によるイベント等を検討してまいりたいと考えています。いずれにいたしましても、世界遺産という高付加価値を活用して、橋本市周辺の広域圏一帯で経済波及効果が見込める取り組みを推進したいと考えています。

○議長（中本正人君）12番 堀内君、再質問ありますか。

12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）どうもありがとうございます。ちょっと時間あれなんで、早く行きます。

教育部長、まずはここまで来たので、マイナスは控えさせていただきます。一番大事なことは、地元との対話だと思っております。よくやっただいていただいているとも思います。でも、今後、きょうからなお一層、市と寺だけのものでもありませんし、関係団体とか区とか、お寺は特に檀家とかそういう方がおられますので、飛び越えずに、まめに足を運んでいただいて協議をしていただきたいと思います。答弁は結構でございます。

式典に関してでございますけども、これからも慎重に、そして明るくにぎやかにお願いいたします。教育委員会はきょうまで、祈念式典の段取りで、ちょっとけんけんがくがくがあったんですけども、感謝しております。

全ては10月末に向けてよくやってくれていると思います。

ちょっとひとり言なんですけど、前教育長、前教育次長は割と現場に何回も来てくれたんで、もしよかったら、また黒河道、せめて橋本領だけでも、1回知っていただくというか、こちら辺がこうなんやとか知っていただくだけでもまた話のネタになろうかと思しますので、そこら辺はちょっとよろしく願います。人事異動等があっても、やっぱり今以上変わらない温度でおつき合いたきたいと、そんなふうに思います。

ほんで、ちょっと総務部長にお伺いするんですけども、答弁にありました周知・PRというのがあったと思うんですけど、具体的に何を考えておりますか。

○総務部長（吉本孝久君）考えとしましては、既存の予算の範囲内で、デザインは市で考えることとしまして、カッティングシートを使いまして、経費を10万円程度に圧縮して、集中管理の車に張りつける方法を考えたいと思います。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）答弁にもありましたように、広報、ホームページなどは引き続きSNSとか、よろしく願います。マグネットシートということとか、カッティングシートというのが出てくると思うんですけども、僕、以前にも、前の副市長に一般質問をしたときに、初めてお褒めの言葉というかをいただいたんです。今の副市長はよく褒めてくれるんですけど、前の副市長と初めて共感と実施についての議論をしたんですけど、役所は何でこれ、ええことやな、やろうよと言うとんのに遅いのかなって、ちょっとセンスのなさを感じるんですけど。

あのとき、当時、経済推進部長が商工観光課長でありまして、へら竿が100年の伝統的工

芸の年でどストライクやったと思います。国体のPRのときで、市の公用車は国体まみれで、かろうじて下水をつなごうの看板と、へら竿のやつは僕は確認しました。それ以外の担当課、やってあったらすいません、地味なやつやったら目立ちませんので。僕の思っているレベルで、センスのあるカッティングシートとかそういうのをなぜしないのかということ。そこら辺のセンスのなさをすごく感じるんです。どの部長に言うとするわけでもない、全員に言うとはんです。平木市長はセンスあると思うんです、そこら早いと思うんで。なぜそういうことをやっていたら、黒河道が国の史跡になった時点でやろうやないかというのが連携してくると違うのかなと思うんですけど、なぜそないならないのかということをお返しいただきたいと思います。答弁は結構です。あんまり言うとは時間あれなんで。

本当だったら、経済推進部長にまた同じことを聞きたかった、PRについて聞きたいんですけど、のぼり旗、よくあるじゃないですか。「はしもとオムレツ」なんてすごく担当職員が生き生きしてて、やっていますよね。いいことやと思いますよ。発信する力というのは、やっぱり人について回るわけですから、結局、その人が担当すればああやって発信するし、違う人が担当やったら地味になるというたら言葉悪いんですけど、実際、緩急つけているじゃないですか。

そこで、経済推進部長にお伺いするんですけど、経済推進部長が答えられなかったら、副市長をお願いします。本市でよく聞くワード、岡潔先生、前畑がんばれ朝ドラ誘致、パイル、へら竿、はしたま、オムレツ、ひねキング、黒河道、柿、はたごんぼ、マッシュルームなどなど、名誉市民やすばらしい資産があります。どれが一番大事なんですか。教えてください。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）非常にお答えしにくいんですけど、観光振興を所管する部としましては、いずれも観光客誘客のために必要な観光資源というふうに捉えております。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。教育委員会も同じ意見だと思います。全部同じ、大事やと思うんです。ということは、なぜPRにこんな差が出るんですかって、予算の額に差が出るのは仕方ないにしても、何でこの人のとりわけにこんな差が出るのか。僕、いつもフェイスブックとかに載せるんですけど、すいません、ラインに載せるんですけど、市長、いいねを押してくれますよね。僕が、ほぼ毎日、ひねキングを食べているの、ご存じやと思います。何であんなおいしいもんが発信できないのか。卵イコール、卵を産まなくなったらひねどりじゃないですか。別にあれを推せというとするわけじゃないんです。

でも、何でこれだけの、今の智太郎選手であつたりとか、時をときめいている、輝いている人は一瞬だけ行くのに、継続的にとか、文化的にとか、たたいていけないのかな。ちょっと温度差が下がったら、あれはどないなつとたんやろってなるんですよ。ということは、悪く言えば、例えば、気悪せんとってほしいんですけど、「はしもとオムレツ」、右肩下がってきたら旗が汚れてくるんですね。そんなことは絶対、農林振興課はしないと申すんです。あの課は割と熱心やと思うんで。ブランド推進室もそこらは熱心にやっと思ふんで。

でも、文化と産業の違いで比べられないんですけども、何で黒河道が、旗の数でも全然違いますよね。各公民館や、各こんなテーブルとか、いろんなとこに「はしもとオムレツ」ってありますよね。あれが必死さと熱意と、



PRするというのそういうことなんと違うんですか。おじいちゃん、おばあちゃんから子どもまで見れるところにあるというPRというのはそういうことやと思うんです。だから、どんだけSNS、これは若い世代でスマホを持っている人やったらわかると思うんですけど、道行くおじいちゃん、おばあちゃんとか、あの旗何やろなとか、橋本市へ来てくれたら371のところです、むちゃくちゃ目立ちますよね。黒河道、何であれと、ええとこを盗んだらええだけやのんというか、ひねキングとか、黒河道のほうが、「はしもとオムレツ」より前にあったわけですよ。

結局、そこにセンスのなさをすごく感じるんです。誰がどの担当やってなったら、話がややこしくなるんで、今、たまたま経済部長にお答えをいただいたんですけど、皆、同じだけ大事なんであれば、そこら辺をもっと、そういうまめな人、担当課というのかな、窓口になる人というのは、僕、必要やと思うんです。そこら辺をもうちょっと徹底して、「はしもとオムレツ」に負けない黒河道というのはちょっとおかしいんですけど、でも、橋本市でこれを発信していこうというのであれば、やっぱりやっていかなあかんと思うんです。発信して何ぼなんで、伝わって何ぼなんです。そこをちょっとご理解いただきたいと思ます。

次に、トイレと看板なんですけど、財政難というのは当然ついて回るんで、これも対話の中で皆が納得するトイレ、これは僕、急ぐ必要ないと思います。タイミングはもうちょっと外しておると思うんで、それこそ用地問題とか、宗教法人の土地が絡んだりとか、市の土地がどこにあるとか、いろんなことがあると思うんで、そこはゆっくり地元と協議して、いいものを形にしてくれたら、大層なものをつくれとかそんなことは言うていません

ので、対話の落としどころがちゃんとあって、皆が共有できるトイレであればよろしいかと思ますので、引き続き検討のほどよろしくお願いたします。

次に、ちょっと抜けたるところを指摘するんですけども、ちょっとご答弁をいただきたいんですけど、あと、看板ですね。県の補助をもうとる看板というのは、当然つけていくのでそれで結構なんです。ご答弁のとおり、感謝するもんなんですけども、京奈和自動車道ですね。京奈和自動車道を通っていたら、例えば、橋本インター付近ぐらいで、ここが黒河道のおり口やとか、それはまずないと思います。370号線、賢堂のちょうど点滅信号です。黒河道のちょうど十字路にあたつとると、ここにも黒河道というのがないです。ほんで、南海電車を見たときに、僕、自宅がちょうど南海電車の前なんで、真田の六文銭の天空もしょっちゅう通るんですね。しょっちゅう手を振ったるんですよ。皆、見とんです。ということは、この踏切のところが黒河道なんだよという看板、これはやっぱり要るんじゃないかなと。ひよっとしたら、オムレツにとられてまいりますよ。そこら辺をちょっとやっていただきたいと思うんですけど、経済推進部長、いかがですか。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）壇上でも答弁させていただいたんですけど、南海電鉄沿線につきましては、紀伊清水駅周辺に黒河道を案内できる、できるだけ大きな看板を設置したいと思っています。その場所については、また地元の方と協議させていただきたいと思っています。

それと、京奈和自動車道と、国道371号の看板の設置のお話をいただいたんですけど、これは市単独でするのは非常に、はっきり言って困難だと思います。そういう意味からも、

国土交通省であったり、県に対してしっかり要望はしていきたいと考えております。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。熱意ある要望であれば、市が手を挙げやんとつけてもらえんもんですし、市長が言うたら絶対につけてくれると思います。

そこで、最後に時間もあれなんで、市長、二、三分でお願いしたいんですけど、ソフト面で、世界遺産を持つ市の市長として、どのように活用して何をつなげていくのか、どうまちづくりに生かすのか。九度山、高野ともやっぱり協力要請をしたんで、それなりの結果というか、費用対効果とは言いません。それなりのやっぱり思いと、こんなふうなまちづくりをしたいんだというのを、市長からちょっと教えていただけたら、お願いします。それをもって、二つ目を終了します。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）堀内議員の質問にお答えをします。

まちづくりと言われますと、非常に難しいなと思います。ただ、黒河道を世界遺産に指定されて、まだ決まっていません。また、パリで何があるかわかりませんので、そういう中で、今、本当に焦っているよりも、世界遺産の指定を受けて、これからすべきことはどういうことがあるんやということを徐々に徐々に示していけばええかなと思います。確かに、のぼりであるとか、看板であるとか、ここは黒河道へ上がるところです、そういう部分の打ち出しというのは必要になってくると思うんです。

ただ、こういうことを言うちょっと違ふかなと言われるかもわからないんですけども、黒河道から高野山ということになれば、橋本市って通過するだけの要素っていうのも非常

に大きいのかなというふうに思いますし、要は、黒河道が世界遺産になったということで活用するためには、ほかの観光部分をいかに結びつけていくかということが大事なことやと思うんです。

その中で、来年の1月にDMOも立ち上げます。そういう中で、県の観光振興課へ派遣している職員も戻ってまいります。そういう人間とも一度、どういう形が一番ベストなのかと、ここをいかにして活用していくかということをやっぱりしっかりと議論しないと、ただ単にこれを立てた、こういうふうに案内した、そのまま高野山へ行ってしまわれた、行ってしまわれたら帰ってこない。実は、黒河道に関しては、いかにして起爆剤にするか、ここを拠点に何をするかということをもう少し深くほり下げて考えていく必要があるのかなというふうに思います。そういう計画ができてくれば、ある程度の方法というのも考えられるのではないかというふうに思っています。

橋本駅前のトイレを見ていただいたらわかるように、あれは市の管理で年間100万以上の維持管理費がかかっています。そしたら、橋本市に何か残していつてくれるかというとなかなか今現状では残していつてもらえないという部分もありますし、これからは逆に、その部分をいかに知恵を出して、観光資源として使っていくかというのを、ちょっともう少し議論させていただきたいなというふうに思っていますし、まだ決まっていないので、国の史跡になりましたけど、すぐに世界遺産になるやろうというような気持もありましたから、そういう部分でできていなかった部分もありますけども、今後はこれから担当も明確にしますし、ここの活用の仕方についても、県の観光振興課に送ってある人間とも、十分、県とも協議するような体制をつくっていき

いと思っておりますので、もうしばらく時間をいただけたらなというふうに思っています。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）すいません、ちょっと終わると言うたんですけど、ちょっといいですか。ちょっともれてたんですすいません。僕の時間なんで、すいません。最後に、区民から、黒河道に関連しとる人からの意見をくみ上げてきて書いていたんですけど、これを言わな怒られると思って、建設部長、ちょっと聞いてください。ほかの方も聞いて。

まず、これ、車の対向するときに、ちょっと人が危ないということですね。あと、いっぱいあるんです。50個ぐらいあるんですけど、何個か言います。ちょっとプレハブのトイレは勘弁してくれ、一番多かったのが、担当の係をつくれ。三谷坂とか、熊野古道のようなところ、駐車場とかそんなんを視察、当然、職員はしているんやろうとか、そういう意見がありました。

一番びっくりしたのが、8月末に黒河道を歩きにきたリュックを背負った人に言われたんですけど、「トイレ、看板、どうなっとんよ」と結構怒られたみたいです。僕じゃないですけど、僕の近所のおじさんが怒られたみたいです。これ、ちょっと議事録につけてください。

以上のことから、最後にもう一個だけ、経済推進部長にお尋ねするんですけど、お願いするんですけど、担当窓口、世界遺産課というのは県にあるんですけど、そんなんは市に望んでいません。せめて黒河道の係、縦割り行政なので、窓口をシティーセールス課の課長か補佐でお願いしたいんです。そこから、これは教育委員会、これはここ、ここというふうに、やっぱり市民からしたら窓口1個のほうがいいに決まっているじゃないですか。そこらはいかがですか。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）黒河道は、世界遺産の高野山を拠点とした観光資源として非常に付加価値が高いので、シティーセールス推進課がプロモーションのために窓口となるのは、これはそれがふさわしいと思います。

ただ、その一方で、和歌山県であったり、文部科学省、それと地元から黒河道の今言われた保全に関して、シティーセールス推進課にもし問い合わせがあった場合、これはもう所属を超えて敏速にそれぞれの所属が、担当者が対応する意識と、そして行動が、シティーセールス推進課が窓口になる必要条件だと考えております。

以上でございます。

○議長（中本正人君）次に、質問項目3、ふるさと納税に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（笠原英治君）登壇〕

○経済推進部長（笠原英治君）次に、ふるさと納税についてお答えします。

まず、平成28年度の寄附額の実績についてですが、8月末現在、入金ベースでは3,349万4,100円であり、昨年度同時期の約1.2倍となっています。特に8月は、旬のブドウの詰め合わせ等の返礼品が好評で、昨年度同月の約2倍となっています。

今後の取り組みについてですが、一定の財源確保を視野に入れつつ、このふるさと納税制度を通じて、民間企業と連携した地域産品の情報発信、また、魅力のある新商品開発や新たな地域産品の創出のため、引き続き、やる気のある市内の中小企業者や農業生産者等への支援を行ってまいります。

さらには、寄附していただいた方々を橋本応援団と考え、きめ細やかなフォローアップを行ってまいります。

地域産品の魅力を寄附者の皆さんに十分理

解していただけるよう、そして地域産品が単なる寄附の返礼品としてではなく、産品自体の価値によって市場に流通できるよう、購入につながるような仕組みをつくることが重要であると考えています。

そのためには、ふるさと納税専門サイトを運営する民間企業と情報発信の面で連携をさらに強化し、本市としても、メディアの活用やフェア等への出展を通じて積極的な広報・PRを実施してまいります。

また、返礼品の受注状況等から寄附者のニーズを分析し、市内の事業者や生産者の皆さんと情報共有することにより、積極的な販売促進、商品開発を支援してまいります。

さらに、地域産品の魅力を認識、納得していただき、また本市を知ってもらうことで、購入したい、訪問したいという意欲を喚起し、最終的には商品の購買や観光といった活動につなげていきたいと考えています。

○議長（中本正人君）政策企画室長。

〔政策企画室長（上田力也君）登壇〕

○政策企画室長（上田力也君）次に、寄附金の使い道の記入項目欄にもう少し選択肢はないのかとの質問にお答えいたします。

市では、橋本市ふるさと応援基金条例を制定して基金を設置し、ふるさと橋本応援寄附金の適正な運用管理に努めています。この条例第7条において基金を処分できる場合を規定しており、この項目を寄附金申込書の使い道の欄に記載しています。具体的には、①元気なまちづくりプロジェクト、②子ども・子育てのびのび夢プロジェクト、③観光・交流プロジェクト、④安全・安心まちづくりプロジェクト、⑤花と緑のリサイクル事業を選択肢として記載しており、その他市長が必要と認める場合も処分できることとなっているため、その他として自由記載欄を設け、希望する使い道を記入していただけるようにしてい

ます。

この寄附金の使い道に関する項目については、今年度から策定に取りかかっている次期長期総合計画のまちづくりの基本施策とするよう検討しており、現時点では選択肢の追加等は考えておりません。

○議長（中本正人君）12番 堀内君、再質問ありますか。

12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。経済部におかれましてはぼちぼち好調で、前向きなご答弁やと思うんですけど、上には上がおおと思うんで、まだ1億、2億と右肩上がりで、そして、地元の産品をPR・活性化させるのがやはり経済推進部のお務めかなと思うんで、よくやっただいていて感謝しておりますので、引き続き、よろしく願いしますとともに、デメリットもついてきます。当然、納税してくれるということは、ひょっとしたら橋本市民がどっかのふるさと納税をしとるかもしれませんし、そういう面ではやっぱり財政とか、あこらともうちよっと話して、今年はこれぐらい減つとるとか、当然、部長間であろうかと思うんですけども、そこら辺も何か具体的なこと、策も考えつつ、よき方向に行っていたきたいと思います。

政策企画室長にお尋ねするんですけども、ちょっと何個か、いっぱい聞きたいことあったんです。めったにお話しすることがないんで。まず、その項目、ホームページからとったんですけど、指定なしというのが一番下にありますよね。これが3,500万円ぐらいあると思うんですけど、これは何に使うんですか。教えてください。

○議長（中本正人君）政策企画室長。

○政策企画室長（上田力也君）ホームページにも五つのプロジェクト以外にも載っているんですけども、現在の長期総合計画にうた

われている、そういった施策全般に使えるようにということで、その他の項目を載せているところでございます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）市長の施策といいますか、当然、次の長期総合計画できるまでは、またいろいろ角度も変わってこようかと思うんですけど、基本的に財政難なんで、こういったお金というのは、ある程度これに係る経費的なものはそこから使うとして、できるだけ市長の施策というのかな、やっぱり政治家なんで、僕はそこをすごく思うんです。使えるお金というのを持たさんと、持たさんという言い方は失礼ですけど、使うお金を市長が握らんと、やっぱり政策を打って出られないので、やっぱりその中枢を担うのはこういう歳入の観点でいうたらどうしたら財政課長に目が行くんですけども、でも、ここはセンスを迫及したら、やっぱり政策企画室長やと、僕、思うんです。そこら辺がやっぱりしっかり市長の思いを理解できとったら、外から補助金等をとってきてするのもいいんですけど、こういうふるさと納税のお金というのは、市長のやはり武器であらなあかんのかなと、僕は個人的にそう思うんで、そこら辺はお願いしておきたいと思います。

項目、説明いただいた①から⑤に仕分けできる意味合いもわかります。条例等で決めておるんで簡単に変更できないのもわかるんですけども、納税いただいた方のご意思とかそういうのを尊重したときに、長期総合計画とかルールで決めているのもわかるんですけど、市民とか、橋本市を外から見ている人、こう使ってくれというのがあると思うんです。

その他の括弧のところで、100万か、ちょっと細かいのがいっぱいあるので計算できないんですけども、その他というのが100万円ぐらいあると思うんです。これってすごい細かい意

見で大事やと思うんです。入り口を広げれば、例えば、時間ないので単刀直入に言うんですけど、僕はしつこく野球場の一般質問しとる人間です、はっきり言うて。市の財源ないんです。できない。でも、市としての答えとしたら、野球場なんか絶対作りませんって、そんなことを言われとるとは思っていないんです。これもこれも優先順位があって全てある程度落ちついたら、思いはかなえてあげたいという気はあるんやけどなという市長の思いやりの答弁をいただいとると、僕、我慢せなあかんと思とんです。

ということは、逆に返したら、これ、少しですけど、僕も何人かにお願い、周知しとる中で、野球場の建設ってポイントで来て、3万円の納税額というのは、寄附金というのは存在するんです。ということは、せめてこの6項目の中に、県立体育館も持つとるんやから、いろんなスポーツ施設、それこそ前畑さんとか、そういうスポーツのえらい頑張った、日本の4番もいれば、金メダリスト、銀メダリストもいるわけですよ、橋本市出身で。ほんなら、スポーツ振興とかに使ってくださいねという入り口の枠をなぜつくらないのか。なぜその協議がないのか。ルールはわかるんですけど、そういった気持ちはないのか、お答えください。

○議長（中本正人君）政策企画室長。

○政策企画室長（上田力也君）先ほど議員おっしゃられたとおり、基本的には、政策的な部分というのを優先したい補助金と考えております。そういう意味で、そのときの市長が、政策的な部分に対して充当できるようにするために、なるべく広いこういう範囲で寄附を募っていきたいという考えのもとで、総合計画というのをベースに考えていきたいというふうには考えております。

議員は、いわゆるスポーツ施設というのを

前面に出してはどうかということなんですけども、私からいたしますと、それでも少し範囲がちょっと特定されているなというふうに感じるわけでございます。市では、例えば、施設をつくることに関する政策決定がまずなされた後に、財源を募る場合においては、クラウドファンディングという、そういう手法も現在、運用、稼働、使っておりますので、そういう手法であれば当然考えられるわけなんですけども、今のふるさと寄附金というのはできるだけ広く、いろんな分野から寄附金を集めたいという、こういう考え方で進めておりますので、ご理解をいただきたいと思えます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）すいません、ちょっと僕も一般質問しているんで、理解なかなかできにくい部分もあるんです、すいません。一応、お互いそれも仕事なんで仲良くしていただきたいと思うんですけど。やっぱりスポーツの寄附金の項目をつくっていく方向で検討してほしいと思うんです。長期総合計画に載ってしまったら、市長の施策としてせなあかんみたいな位置づけになってくるじゃないですか。そこまで、とり方によつたら話なんですけど、別に長期総合計画で野球場を載せる必要はないと思うんです、別に。スポーツでも振興の、例えば、悪く言うわけと違うんですけど、花と緑のリサイクルとかで500万とかがどない使うんやろうとか、ちょっとわかれへんのです、実際。

でも、スポーツ振興とかやったらどこの市町村でもあるようなワードやと思うんです。別に、野球場に限らず、朝一の6番議員もサブプール云々と言うとったんで、そこから使えると思うんです。それを分母に、宝くじであったり、いろんな補助金というのを抱き合わせてかかっているわけですから。要は、

やる気があるかないかの話で、ルール上、だめやというのであれば、クラウドファンディングをしっかりとやっていただきたい。何より本市には、名前を出していいのかな、大きい寄附をくれた基金ありますよね。スポーツ青少年健全育成どうたらというやつ。あれは、ずっと使わずじまいの金になってまうんです、はっきり言うたら。やっぱり、似たような色をつけたお金というのが、野球場で3万円入ってきたんやったら、それとこれは似とるんですよ、お金の色が。そこら辺を考えて、とったさかいせえとかそんなことは言いません。あくまで寄附なんで、志なんで、それは受け取っていただいて、感謝状でそれでいいと思うんです。

でも、やっぱり世代が違うように、そこらの意見もくみ上げて、政策企画室長やからこそこできるセンスというのがそこに僕はあると思うんです。だから、やっぱり縦割り社会で難しいけども、どこの部署にも、今、政策企画室というのは直轄というか、機構改革であれなんやけど、やっぱりそこら辺、コントロールできるのは政策企画室長しかおれへんと思うんで、僕、きょうこの答弁というのは、エースを打ち崩してピッチャー交代で出してきたつもりで、今、政策企画室長と話ししているんで、1個進んだ答弁、ちょっといただけますでしょうか。

○議長（中本正人君）政策企画室長。

○政策企画室長（上田力也君）なかなか難しいわけなんですけども、ふるさと納税というお話はちょっと置いておいたとして、やはり、きょう午前中の6番議員のプールの話もございましたけども、やはりスポーツ関連施設の政策決定というのが、いわゆる必要性和政策決定というのがまずはこれがポイントというふうになってくると思います。その上で、それが位置づけられたとなったときの話という

ことになると思うので、今現在、教育委員会でもいろんな施設を管理されています。陸上競技場なんかでも、また何年後かには大規模改修もせんといかんという状況も踏まえた中で、これからスポーツ推進計画というのもあるんですけども、その中でどういうふうに教育委員会が位置づけられているのかというのを、それを受けまして、政策的にどう判断するか、かじ取りをその後にしていくという流れになると思います。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。ところで、教育委員会というワードを出していただいたんで申し上げますけども、前の野球場の一般質問で、必要性は感じとるというふうに教育委員会からご答弁をいただいておりますので、そこら辺も踏まえてくみ上げた

上で前に進めていただきたいことを強く思いまして、一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君の一般質問は終わりました。

---

○議長（中本正人君）お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会し、明9月14日午前9時30分から会議を開くことにいたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中本正人君）ご異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

本日はこれにて延会いたします。ご苦労さまでした。

（午後4時15分 延会）